

可児福音教会の対策と方針

発行日 令和2年3月26日

発行人 可児福音教会

信徒の皆さんへ

長期化するコロナウイルス感染拡大防止措置の中で、教会の今後の対策と方針について連絡します。

現在、国内のコロナウイルス感染状況は、東京都に感染爆発の危険性が高まっているところまで来ています。また、可児市、その近郊において感染者が確認されています。

このような状況が改善されてゆくのか、更なる悪化を辿るのか、見通しはまだ立っていません。

個人としてはもちろんですが、教会としてもあらゆる状況に対応してゆく必要があります。

現状を踏まえ今後の方針と対策をお伝えします。

I 教会の方針

コリント人への手紙 第二 4章 16～18節

ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。

私たちは、見えるものにではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。

①可児福音教会としての信仰告白

- ・私たちは、どのような困難、試練の中でも光を放つ証人として神の国を建てあげます。
- ・私たちは、クリスチャンの最大の使命（礼拝・宣教・弟子づくり）を果たし続ける教会としてたちます。

②現状に思う事

感染の対策として講じられる 3 つの回避（共に集うこと、人との交わり、飲食の共有）は教会活動の核となるものです。これは礼拝、宣教、交わりを意味します。

この 3 つの要素はクリスチャンの力と輝きを維持し成長させる力です。この要素を回避し続けることは教会の死を意味します。それは、クリスチャンが使命を果たすためのからだを失う事になるからです。

このような事態の中で教会がどのように命を維持し使命を果たしてゆくかは最重要課題です。

このような時に私たちがどう歩むかは、終わりの時代に立たされている教会として真価が問われている気がします。

1ヶ月で終息するかと思われていたこの事態も未だ終わりを迎えることができず、世界は経験したことがない静かな混乱と不安の中に座り込んでいます。

あと 3 ヶ月、じっと身を潜めていれば混乱は治るかもしれない。

あと 6 ヶ月、じっと停止していれば医療体制と治療法が安定するかもしれない。

しかし同時にこの停止は多くの人達の機能死を招き、国の衰退を招きます。

多くの人達が現実のパンに飢え水に乾く事態が訪れています。

国は身体の機能死を回避するために必死で対策を講じていますが、体の小さな器官の多くが既に死に瀕しています。

では神の国はどうか。教会はどうか。クリスチャンはどうか。

神の国は治める王とその民によって成り立っています。民が弱れば国の働きも弱ります。

教会が弱められれば、世を照らす光も弱まります。

クリスチャンがキリストのからだを離れていたら教会は死にます。

私たちはキリストによって呼び集められた器官です。

いのちのパンと生ける水によって生かされているからだです。

クリスチャンの光が弱められようとする力に対抗し、乗り越え、打ち勝つ必要があります。

心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして主を愛することを第一とする必要があります。

世と同じように弱められているよりは、かえってこのような時にこそ燃えているべきだと一致しましょう。

とはいえたまには「信仰のみで戦う」という極端な方針で進むのではありません。

私たちは、病、健康へのリスクを軽視したり無視したりはしません。

できる対策をとりながら、からだの健康、家族、職場、地域への配慮に留意していきます。

可児福音教会の皆さん、キリストの家族としてこの体がかえって強められるように、いずれ訪れるもつと大きな患難の中でもうろたえることのない者たちとして、このような状況の中でも光を弱められるこなく一緒に歩んでいきましょう。

③この1ヶ月の配信礼拝を振り返って

3月の1日から3度、配信礼拝が行われました。事前に対応策があったわけではない中での緊急措置でした。各個人、各家庭、各セルで日曜の礼拝が視聴されました。40年に渡る教会の歴史の中で初めて礼拝堂に集わない礼拝が行われました。

その振り返りとして以下の感想を受け取っています。

(感想)

- ・セルで礼拝ができ、終わった後もゆっくり分かち合いができるよかったです。
- ・家族で礼拝することが新鮮だった。
- ・ちゃんとワーシップと献金もできた。
- ・環境が安全だからよかったです。
- ・礼拝時間を聖別してきた習慣が損なわれた。
- ・礼拝への備え、姿勢が緩くなってしまった。
- ・思いっきりワーシップして祈ることができないのはもどかしい。
- ・個人で礼拝するのは難しい。
- ・献金がおろそかになってしまった。
- ・子供礼拝、中高生礼拝ができなかった。
- ・教会として誰が礼拝を守れたか把握できない。

(感想を受けて)

何よりも、安全な環境下で礼拝ができた人たちがいた事に感謝です。このような方法は今後も必要になってくると思われます。しかし、多くの人たちの礼拝が失われていた事に心を痛めています。

特に、クリスチャンホームではない人達、若者達にとっては個人での礼拝は非常に困難だったようです。

午後から教会に集っていた中高生達や、毎週顔を合わせていた子供達は靈的な糧を得る場所を失っていました。

礼拝という教会の生命線の維持がいかに重要であるかを確認させられた1ヶ月間でした。

礼拝をどのような形に変化させ行く事になつても、私たちは「神の国とその義とを第一にする」という信仰と態度をとり続けることが必要だという確信を持ちました。

たとえ一堂に会することができなくとも、クリスチャンの光は決して消えない、キリストのからだは死はない、礼拝は絶えない、神の国は衰えない、ということを証明しましょう。

その姿を神様に見てもらうだけではありません。クリスチャンの光を奪おうとする悪しき力に対しても宣言しましょう。

礼拝を聖別し、人生を神様に委ね信頼することから決して離れないでください。

私たちは勇士でしょうか。それとも風に吹き飛ばされる粋殻でしょうか。

私たちは主に召し出された勇士でありキリストの家族です。

II 今後の対策について

①対策の実施期間

- ・3月29日～4月10日（金曜日）

※11日に臨時役員会を実施し12日からの方針を取り決める

②3月21日に臨時役員会で取り決めた対策方針を変更する。

(変更点)

- ・礼拝堂での礼拝、キッズ礼拝の実施を延期する。
- ・アウトリーチの実施を延期する。
- ・第3期の対策期間を4月19日までから4月10日に変更する。
- ・次回の臨時役員会を4月19日（日曜日）から4月11日（土曜日午前10：00より）に変更する。

③今後も継続される対策

- ・大規模のイベントの自粛（セル活動は既に活動中）
- ・礼拝後の昼食自粛
- ・接触活動の自粛（握手、ハグ、近接の会話、運動等）
- ・換気がされる場所でのみの活動
- ・事前検温の徹底
- ・マスクの着用の必須
- ・定期的な教会の消毒、除菌
- ・本人、近接者の体調不良の際の連絡の必須

④実施される活動（以下の条件下で行います）

- | | | | | |
|-----------|------------|------------|-------|---------|
| ・事前検温必須 | ・マスク着用必須 | ・非接触 | ・調理禁止 | 飲食の共有禁止 |
| ・密着した席の禁止 | ・大声での会話の自粛 | ・長時間の会話の自粛 | | |

- ・各ミーティングの実施（役員会、V2、セルリーダー会、アウトリーチリーダー会）

- ・セル

III 神の国を建てあげ、お互いを建て上げる

①礼拝を聖別し神様に仕える姿勢を互いにあらわしてください。

・感謝すること、祈ること、御言葉を糧とする姿を互いにあらわしてください。

・心を合わせて祈りとりなす時を持ってください。

・金銭に対して神様に忠実するために互いに励ましあってください。

※「献金」は自分の人生の導き手に対して自分を捧げているという礼拝行為です。

サタンが最も人を支配しやすい領域です。「カタチだけの礼拝」ではなく、靈と誠による心からの礼拝を捧げましょう。

(3月に行われた感謝献金、十一献金は3月中に教会に持ってくるようにしてください。)

②互いを建て上げるために

たとえ大人数で会うことができなくても、信仰を共有すること、励ましあうことはできます。

LINEやメール、無料ビデオ通話等を用いることでも互いを建て上げることができます。

・デボーションや通読箇所を共有し、確かめ合う

・週に1度、健康状態や靈の健康を確かめ合う

などなど、様々なツールを有効に活かして次世代や仲間達に対して積極的に働きかけていきましょう。

(最後に)

この先、このような状況が長期化したとしても、教会が生き、クリスチャンの光が消えず、礼拝がささげられることができるように祈ってください。

このような状況下の中でも、数多くの教会が礼拝を守り祈り続けています。

しかし、場所や設備がなく、人材が不足している数多くの教会がその機能を停止しています。

キリストの血潮が国々の隅々にまでゆき巡ることができるよう、世界の隅々まで行き渡るように祈ってください。

また、感染し苦しんでおられる方々の病が癒され、世界中から不安と恐れが全て拭い去られるように、皆が安心して暮らしを取り戻せるように祈りましょう。

可児福音教会

細江誠貢